



応援の効果

副校長 手山 晃洋

先日行われました開校150周年記念 運動会のご参観、誠にありがとうございました。当日は本校の子供たちにたくさんの応援の声が掛けられました。応援団による応援、友達からの応援、保護者の皆様からの応援、来賓の皆様（町会長始め町会関係・墨田区教育委員会・旧職員等）からの応援、教職員からの応援。PTAからは総務部の方を中心に、運営面においても大きな応援をいただきました。

応援に支えられ・・・

今月の学校だよりでは、この「応援」について考えてみます。私自身も、応援に支えられたことはこれまで何度もあります。学生のときの持久走大会。後先考えずにスタート直後からスピードを出したが為に、途中で疲れ果て、気付けば最下位に。でも「あと少しだ!諦めるな!」会場にいる大勢の人から受ける一斉の応援は自分に力を与えてくれ、ゴールまで走りきることができました。大切な試験の日。緊張で心臓が飛び出てくるような思いのままに玄関を出ようとしたとき掛けられた、家族からの言葉「大丈夫。これまでしっかりと努力してきたのだから。」自分を信じ、緊張感をやる気に替えるきっかけとなりました。

応援する相手のことを考え（スポーツから）

応援の効果については、スポーツの世界で、様々な研究が行われています。陸上の長距離走では、「応援あり／応援なし」を比較し、9割の選手が早い記録を出したという事例があります。サッカーでも同様に「応援あり」の方がチームの勝率が上がるという事例があるようです。しかし、中には「応援が逆効果に!?!」ということも。野球のバッティングにおいては「応援なし」の方が良い打率に。過度に大きな応援は、その場で求められる集中力や動きの精度の妨げとなるからのようです。つまり、ただ大きい声で応援すれば良いというのではなく、応援する相手が、最大限に力を発揮できる最適な状況をつくる必要があるようです。

応援する側にもよい効果（「推し活」から）

応援の効果は、アーティスト・アイドルの「推し活」においても研究がされています。応援することでアーティスト・アイドルの頑張りを自分と重ね「自分も同じように頑張ろう。」という心理が働くそうです。また、同じアーティスト・アイドルを応援している仲間とは、協力と競争が混在するライバルのような関係となり、互いを高め合うプラスの心理が働くそうです。確かに、ライブ会場では自分の推しに喜んでもらおう、会場を盛り上げようと、大勢のファンが声を揃えて様々なコールを発しています。つまり、応援される側だけでなく、応援する側にも、よい効果があるようです。

子供たちの一番の応援団として

私たち両国小学校の職員一同は、日々の教育活動を通じて、子供たちを応援していきます。保護者・地域の皆様におかれましても、学校と同じく、子供たちの一番の応援団として、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

